

北海道鉄道本部が春闘要求書提出 すべての社員に2年連続5ケタのアップを！ 処遇改善で青年社員に将来展望を！

北海道鉄道本部は2月13日、J R北海道に2026年春闘要求書を提出しました。賃金引き上げ要求は、物価高騰から社員・家族の生活を守るためにすべての社員に2年連続の5桁アップ（基本給の月額12,000円引き上げ／非正規社員には日額530円以上など）を実現することと、青年社員が将来展望を持てるようにして新規採用者の拡大と中途退職者を減少させることで安全・安定輸送に必要な要員の確保につながる「処遇改善」はかることを柱にしています。青年社員は労働時間の短縮・休日の増加を求めています。あわせて、家族の生活を守る責任から定年退職年齢の改定やエルダー社員の処遇に注視しており、将来を見据えた生活設計をたてるうえで大きなウエイトとなっています。

北海道鉄道本部は、仕事への誇りと公共交通機関で働く者としての責務を全うするに相応しい待遇への改善を2026年春闘で前進させ、労使が丸一となって「希望に溢れる会社」となるよう共に奮闘する姿をJ R北海道に求めています。

函館支部が2月の「健康相談会」

函館支部は2月6～8日に北斗市と函館市の5会場で「健康相談会」を開き9人が相談に来ました。相談内容は、アスベスト疾患が4件、じん肺が3件、振動障害が2件、騒音性難聴が1件でした。1～2月の相談会にむけてチラシを約7万1千枚つくり新聞折り込みしたほか、医療機関にポスターを掲示し、ダイレクトメールを過去の相談者に9通送りしました。1～2月の相談者の合計は18人で、このうちチラシを見て来た人が7人、組合員や医療機関などからの紹介が9人、ダイレクトメールを見て来た人が2人でした。

J R北海道の第2四半期収支などで意見交換

1月26日、北海道鉄道本部はJ R北海道から2025年度第2四半期・線区別の収支と利用状況について説明を受け意見交換をおこないました。営業収益は運賃改定や千歳線の利用が千歳空港や北海道ボールパークへのアクセス利用により好調だったことなどから、札幌圏をはじめ多くの線区で増加していました。一方、人材確保のための待遇改善を進めたことや物価高騰により営業費用が増加したものの、全体での営業損失は前年比で1億2千万円縮小し、札幌圏は前年度に引き続き営業損益が黒字と報告されました。黄色線区全体では観光列車の運転などで営業収益は増加しています。宗谷線において災害復旧費用を計上したことで営業損失が拡大となっており、自然災害からの復旧費用が線区ごとの収支に大きな影響を与えているものと受け止めました。新幹線については電気設備の修繕費（ケーブル交換）が計上されていることで営業費用が増加し、営業損失は14億6千万円拡大となっていますが、年間を通すと前年並みとの報告でした。新幹線には国からの特別支援がおこなわれていますが、決算期の収支報告の中では繰り入れた全体の数字が示されており、新幹線単独の繰入額が示されたもとの意見交換を進めることの必要性を述べて、この日の交渉を終えました。【北海道鉄道本部・竹田吉宏】